

日本共産党の竹田えつ子です こんにちははニュース 議会報告



No.180

2022年5月第2週



くらしのご相談事
いつでもお声かけ
ください。

「ロシアは侵略やめよ」「国連憲章を守れ」の一点で世界が団結することが重要

4月29日、全国学者・研究者日本共産党後援会の主催で開催された「大



あれこれの価値観ではなく「国連憲章にもとづく平和秩序」を

志位氏は、バイデン米大統領の一般教書演説でロシアを激しく非難し、

▶5月3日「市民が野党をつなぐ埼玉6区連絡会」主催の上尾駅での宣伝行動で、秋山もえ県議

は、憲法9条があったからこそ75年間戦争してこなかった、この憲法を守りましょと訴えました。

「民主主義対専制主義のたたかい」というスローガンだったと指摘。プーチン政権は専制主義的な政権であることは間違いないとしつつ、「いま問われているのは、あれこれの『価値観』ではない、「あれこれの『価値観』で世界を二分したら、解決の力も解決の方向も見えなくなる」とし、現にいま、アメリカの立場に新興国や途上国などから批判が上がっている」と述べました。「大切なのは、あれこれの『価値観』で世界を二分

するのでなく、『国連憲章を守れ』の一点で世界が団結することです」と強調しました。

岸田首相もロシアの軍事行動に対して「国連憲章違反」という批判の言葉を最大限使っていないことを指摘。『価値観を共有するG7主導の秩序の回復』としています

が、回復すべきは『G7主導の秩序』ではありません。『国連憲章にもとづく平和秩序』です。この方向こそ、新興国や途上国も含めて世界が結束できる秩序ではないでしょうか」と訴えました。

軍事ブロツクの対応は戦争の拡大を招きかねない

また、志位氏は「侵略

に対する軍事ブロツク的な対応は、ロシアの侵略を止める国際的な団結をつくる点でも、戦争の拡大を招きかねないという点でも、大きな問題があります。こうした動きに対しては、『国連憲章にもとづく平和秩序を回復する』という立場から、冷静な批判をしていきます」と語りました。

平和憲法9条生かした外交努力を

「軍事力には軍事力の発想は、歯止めのない軍拡競争への道です。国家間の争いを絶対に戦争にしない―これが9条を持つ国の責任であり、そのために知恵と力を尽くすのが政治の使命です。

梅村さえこ

参議院埼玉選挙区(予)候補の活動より



憲法記念日 施行75周年の節目！まずは日本国憲法に「ありがとつ」を言いました。戦後一人も子どもたちを戦場に送って戦争で命を失わせることはなかった。ウクライナで多くの市民が、またロシアも兵士たちの命が。軍事対軍事では命は守れない！国連憲章、人道法を守る社会こそ必要。

鴻巣市のワクチン接種状況 (12歳以上、5月9日時点)

| 接種対象者数 | 107,527人 | |
|--------|----------|-------|
| 接種済み | | |
| 1回目接種 | 99,274人 | 92.3% |
| 2回目接種 | 98,424人 | 91.5% |
| 3回目接種 | 67,109人 | 62.4% |

今年も見事に咲いた原馬室斎藤さん宅のなんじゃもんじゃ(ヒトツバタゴ)の木



校則シンポジウム みんなでかんがえ、みんなでかえる

日本共産党校則問題プロジェクトは4月30日、党本部で「校則シンポジウム みんなでかんがえ、みんなでかえる。」を開催しました。竹田えつ子は、「校則シンポジウム」の動画を見て感動し、考えさせられる発言が多数ありました。皆さんにも知っていただきたいと願い、「しんぶん赤旗」紙面より紹介します



写真) (右から) 安達、西郷、梅村の各氏を招いて行われた校則シンポジウム。手前は司会の吉良氏



同プロジェクトの梅村さえこ責任者(参院埼玉選挙区予定候補)は、昨年実施した校則アンケートで7割の中高生が校則検査を不快に感じ、「校則に生徒の意見を反映させたほうがいい」が教員・保護者・市民の9割に上っていることに言及。「私たちは校則改革の入り口にいる。力を合わせてかえていこう」と述べました。

前・都立北園高校生徒会長で大学1年生の安達晴野さんは、頭髪検査に反対した経験について、「自分が声を上げ始めたら一緒に声を上げてくれる仲間が増えた」と強調。「生徒に校則指導したくないと思っている先生もいる。校則について立場を超えて本音で語り合える環境づくりが大切だ」と語りました。



元・世田谷区立桜丘中学校長の西郷孝彦さんは、服装の自由化や校則をなくしていった経験を発言。「発達に特性のある子どもたちも生きやすい環境にもなる」と語り、「校則を厳しくすれば学校が荒れないということではない。子どもが幸せなことが大事」と指摘しました。

吉良よし子参院議員は、校則について「子ども参加が望ましい」など新たな答弁を引き出したことを報告。「ルールは従うもの」という発想をかえることの社会的重要性を強調しました。



池川友一都議は、髪形のツーブロック禁止の校則がすべての都立高校で廃止されたことについて「理不尽なことがあっても、声を上げればかえられる」とメッセージを寄せました。

ゲストとして川崎市在住の保護者も登壇。長女が中学校の入学式でピンク色の髪ゴムを黒色につけかえられたことをきっかけに保護者たちがつながっていった経験を発言しました。シンポジウムの後には、生徒や保護者、教員らによるアフタートークが行われました。